

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成27年 7月14日

井原市議会議員
上野 安是 様

井原市議会議員 西村 慎次郎

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成27年7月8日（水）～7月9日（木）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	栃木県大田原市本町1丁目4番1号 大田原市議会
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	○議会改革について ○議会だよりについて ○タブレット端末を利用した議会について ○トコトコ大田原について ○那須野が原ハーモニーホールについて ○那須与一伝承館について
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	○大田原市議会 議長 藤田 紀夫 副議長 鈴木 徳雄 議会運営委員長 引地 達雄 総務常任委員長 高野 礼子 民生常任委員長 前野 良三 建設常任委員長 君島 孝明 文教常任委員長 高瀬 重嗣 ○大田原市議会事務局 議会事務局長 藤沼 史生 議事課長 藤原 和美 総括主幹 齋藤 一美 主査 佐藤 崇之 主査 菊池 康弘

5. 活 動 内 容

★議会改革について

- 「市民にわかりやすい議会」「議員活動の活性化」という2つのテーマを掲げて、「議会活性化推進特別委員会」を平成24年3月22日に設置（委員数は13名）
- 議会改革に向けた改善項目70項目を協議
- 議会改革に向け第1次答申、第2次答申を行う
- 平成26年3月25日に、「大田原市議会基本条例策定等検討委員会」を設置（委員数11名）
- 平成27年6月定例会において、「大田原市議会基本条例」を可決し、平成27年7月1日より施行



- 平成27年7月1日施行の議会基本条例に関する規則等
 - (1)大田原市議会委員会傍聴規則
 - (2)大田原市議会の文書質問に関する規程
 - (3)大田原市議会における会議の音声及び映像等の情報の取扱いに関する規程
 - (4)大田原市議会報告会実施要綱
 - (5)大田原市議会正副議長立候補所信表明演説会実施要綱
 - (6)大田原市議会質問確認権に関する要綱
 - (7)請願者・陳情者の委員会における意見陳述について
- 今後、施行を予定している規則等
 - (1)請願者・陳情者に関する取扱要綱（未定）
 - (2)大田原市議会市民5分間演説実施要綱（議会運営委員会で検討中）

★議会だよりについて

- 広報広聴委員会規程を策定し、平成27年4月14日から施行
- 広報委員会（議会運営委員会の委員が兼務）から広報広聴委員会を新たに設置（委員数8名）
- 議会だよりの発行は、年3回行っており、平成27年5月号で170号を迎えた
- 広報委員が、議会の概要（2ページ）、代表質問・一般質問の原稿を作成
- 一般質問の原稿は質問者本人が作成していない

5. 活 動 内 容

★タブレット端末を利用した議会について



○執行部がまずタブレット端末を導入し、その後、議会へタブレット端末を導入

○執行部のタブレット端末導入前の経緯

- 大田原市役所地球温暖化防止実行計画が、平成 12 年 10 月に策定され、地球温暖化対策を推進する。
- 取組目標として、コピー用紙の現行使用枚数 15,968,566 枚を基準年度比 20%削減とする。
- コピー用紙の削減に向け、ペーパーレス会議を推進するため、タブレット端末の導入を決定する。(平成 26 年 6 月)
- 平成 26 年 8 月より、部課長会議でタブレット端末を使用し始める。
- 執行部のタブレット端末の仕様
タブレット端末：アップル社製 iPad Air 16GB
使用ソフトウェア：サイドブックス・クラウド本棚
リース料：3 年間総額 626 万円（通信費除く）
Wi-Fi 工事：39 万 5 千円
Wi-Fi 設定費：150 万円

○議会のタブレット端末導入までの経緯

- 平成 26 年 9 月から執行部が議会でタブレットを使用するようになり、平成 27 年 3 月議会からは議場でインターネット回線を利用し、オンラインでの使用を許可いただきたい旨の申し出があった。
- 平成 26 年 12 月定例会の補正予算に、議会棟の議場及び会議室等に無線 LAN (Wi-Fi) を構成するため、アクセスポイントの設置工事を行いたい旨の申し出があった。
- 会派代表者会議で検討し、議会運営委員会で協議した結果、「議会としてもタブレット端末を導入し、執行部と同じ条件で本会議等に臨むべきである」との意見があり、執行部のオンラインでの使用を許可し、議会としても執行部と併せ、タブレット端末の導入を決定した。

5. 活 動 内 容

● 議会のタブレットの仕様

タブレット端末：アップル社製 iPad Air2 16GB

台数：28台

使用ソフトウェア

- ・会議システム（日立システムズ）

ソフト名「スマートセッション」

- ・グループウェア（Google）

ソフト名「Google Apps for Work」

導入費用等

- ・タブレット端末購入費等：0円
- ・タブレット端末通信費：2年間で約92万円
- ・ソフトウェア：初期導入費45.9万円
会議システム使用料月額97,470円
- ・Wi-Fi環境：初期導入費約253万円
通信費月額28万円

● 導入効果（見込み）

- ・紙の削減：36万枚、年間29万円削減を見込む。
※用紙代削減やコピー等の事務作業削減により、年間213万円を見込む。
- ・タブレット端末の使用料は年間約163万円であり、50万円のメリットがある。

★トコトコ大田原について

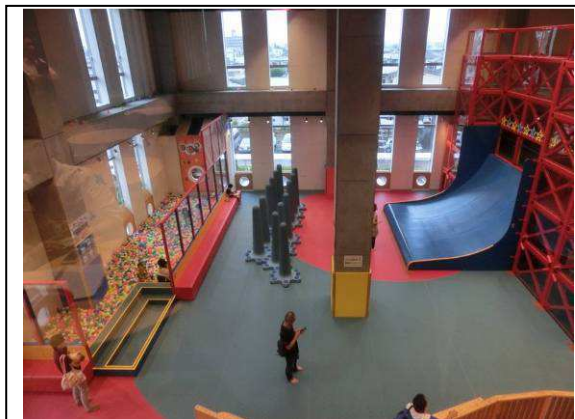
○中心市街地に、にぎわいを創出する目的で建設



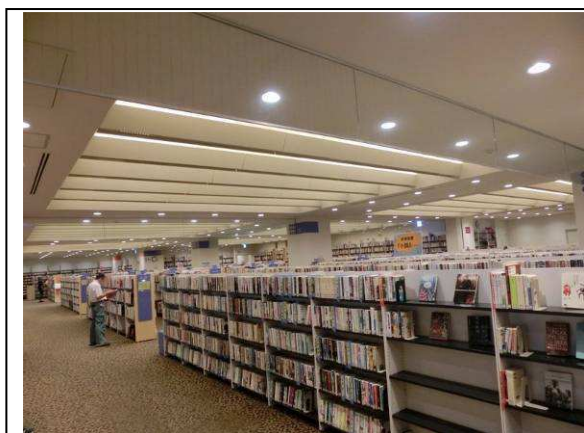
○建物内の概要

- 1階は、権利者店舗2店舗及び株式会社まちづくりカンパニーが保留床を取得して賃貸により貸出。自ら生鮮食料品を販売する商業施設で、正式名称を「トコトコマルシェショッピングフロア」とし、平成25年10月19日（土）オープン。
- 2階、3階、4階は大田原市が中心市街地のにぎわい創出のため整備した公共施設で「大田原市子ども未来館」、「大田原市市民交流センター」、「大田原図書館」で構成されている。

5. 活 動 内 容



【子ども未来館】



【大田原図書館】

- 5階、6階、7階は、権利者住宅5戸と分譲住宅5戸からなっている。

○来場者数（平成27年5月）

- 子ども未来館：20,652人（688人／日）
- 図書館：20,198人（721人／日）
- 市民交流センター：2,116人（68人／日）

★那須野が原ハーモニーホールについて

○大田原市・西那須野町（現在の那須塩原市）の2つの自治体が共同して建設した全国初のホール。

○平成6年12月17日開館。

○平成25年12月にパイプオルガンが完成・オープン。



5. 活 動 内 容

- ハーモニーホール建設費：92億円
- 費用負担割合は、大田原市6：那須塩原市4で運営
※一部、負担割合が違う部分あり。
- メンテナンス費用が莫大にかかっている。例えば、照明の更新をする場合、約6億円かかる。

★那須与一伝承館について

○扇の的劇場

客席数53の劇場で、「扇の的」として名高い屋島合戦における那須与一の活躍を、からくり人形風ロボットと三面ワイドスクリーンの映像によって表現している。



○那須与一展示室

与一を生んだ那須氏に伝わる「那須家資料」をはじめ、与一や那須氏に関わりのある貴重な資料が展示されている。

★所感★

大田原市及び大田原市議会の先進的取り組みについて視察を行った。

タブレット端末をうまく活用され議会運営が行われていた。執行部が先に導入したことにより、議会への導入がスムーズに進んだものと思う。ICTの活用は、ペーパーレス化・事務の効率化などさまざまな効果があると感じた。

また、導入費用も非常に安く導入されている。今後、更新時の経費は気になるところである。

議会中にICTを活用することで、タブレット端末障害やネットワーク障害により議会がストップするリスクが高まってしまいが、ネットワーク回線の2重化などそのリスクに対する対策もきっちりとされている。

大田原市議会の導入費用程度で井原市議会も導入できるのであれば、前向きな検討を進めても良いのではないかと感じた。導入に際しては、タブレット端末の操作研修や活用研修を十分行う必要があるとも感じた。

その他、いろいろな施設を視察したが、思い切った投資をされていることには驚いた。

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

政務活動実施報告書

平成27年 7月13日提出

井原市議会議長 上野安是 様

報告者

河 合 謙 治

期 間	平成27年 7月 8日(水)～平成27年 7月 9日(木)	
出張先及び セミナー名 講師氏名	1) 栃木県大田原市	
出張者氏名	藤原清和, 宮地俊則, 三宅文雄, 惣台己吉, 柳井一徳, 荒木謙二, 西村慎次郎, 河合謙治	
調査項目	1) 議会改革について 2) 議会だよりについて 3) タブレット端末について	
1. 栃木県大田原市について (1) 議会改革について 議会活性化推進特別委員会の設置 平成24年 3月22日設置 委員数13名 活性化の方策に向けた2つのテーマ 「市民にわかりやすい議会」 「議員活動の活性化」 議会改革に向けた第1次答申について 平成24年9月定例会からの取組み ① 議長の発言		



1. 報告書は、視察・研修終了後2週間以内に提出してください。
2. スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してくだ1さい。

議場での議員の呼び方を番号ではなく、氏名を呼ぶ
② 質疑回数
質疑の回数制限の見直し（２回から３回に改正）
③ 一般質問
通告内容が重複した場合の答弁のあり方
④ 会議録
会議録の公開方法
議会改革に向けた第２次答申について
平成２４年１２月定例会からの取組み
① 自由討議
議員同士の活発な自由討議の導入
② 一般質問
一般質問の質問方式（一問一答方式）の検討
質問者席を設置し、対面式で一般質問を行う
通告日から質問日までの日数の再考
③ 反問権
一般質問時に執行部への反問権を
④ 代表質問
現在中止となっている会派代表質問を復活させる
⑤ 常任委員会
常任委員会の強化
⑥ 予算及び決算審査特別委員会
予算、決算審査特別委員会の常任委員会化
質疑事前通告制の導入
大田原市議会基本条例策定について
大田原市議会基本条例策定検討委員会の設置
平成２６年３月２５日設置（委員数１１名）

(2) 議会だよりについて	
広報広聴委員会規定（平成27年4月14日施行）	
現在までの発行号（新年号，2月号，5月号）	
広報委員が作成しているページ（議会の概要，代表質問，一般質問の原稿及び写真）	
(3) タブレット端末について	
執行部のタブレット端末導入	
平成26年8月（部課長会議で使用を始める）	
議会のタブレット端末導入	
平成27年3月	
2 その他の視察場所	
トコトコ大田原	
那須野ヶ原ハーモニーホール	
与一伝承館	
3. 所感	
大田原市議会における議会改革、議会だよりについては、井原市議会の方が全体的には先進しているように思われた。しかし、議会でのタブレット端末の導入に関しては、大田原市議会の方が先進であり、定例議会だけでなくあらゆる会議に導入されている。執行部が先立って導入し、議会へと展開されたことが、とても感慨深いものである。井原市としても、今後考えていかないといけない事例である。	
	

様式第 2 号（政務活動実施報告書）

平成 2 7 年 7 月 15 日

井原市議会議長

上野 安是 様

井原市議会議員 荒木 謙二

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成 2 7 年 7 月 8 日（水）～ 7 月 9 日（木）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	栃木県大田原市本町 1 丁目 4 番 1 号 大田原市議会
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	○議会改革について ○議会だよりについて ○タブレット端末を利用した議会について ○トコトコ大田原について ○那須野が原ハーモニーホールについて ○那須与一伝承館について
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者	○大田原市議会 議長 藤田 紀夫

名	副議長 鈴木 徳雄 議会運営委員長 引地 達雄 総務常任委員長 高野 礼子 民生常任委員長 前野 良三 建設常任委員長 君島 孝明 文教常任委員長 高瀬 重嗣 ○大田原市議会事務局 議会事務局長 藤沼 史生 議事課長 藤原 和美 総括主幹 齋藤 一美 主査 佐藤 崇之 主査 菊池 康弘
5. 活 動 内 容	★議会改革について ○「市民にわかりやすい議会」「議員活動の活性化」という 2つのテーマを掲げて、「議会活性化推進特別委員会」を 平成24年3月22日に設置（委員数は13名） ○議会改革に向けた改善項目70項目を協議 ○議会改革に向け第1次答申、第2次答申を行う ○平成26年3月25日に、「大田原市議会基本条例策定等 検討委員会」を設置（委員数11名） ○平成27年6月定例会において、「大田原市議会基本条例」 を可決し、平成27年7月1日より施行 ○平成27年7月1日施行の議会基本条例に係る規則 等 (1)大田原市議会委員会傍聴規則 (2)大田原市議会の文書質問に関する規程 (3)大田原市議会における会議の音声及び映像等の情報の 取扱いに関する規程 (4)大田原市議会報告会実施要綱 (5)大田原市議会正副議長立候補所信表明演説会実施要綱

	(6)大田原市議会質問確認権に関する要綱 (7)請願者・陳情者の委員会における意見陳述について ○今後、施行を予定している規則等 (1)請願者・陳情者に関する取扱要綱（未定） (2)大田原市議会市民５分間演説実施要綱 （議会運営委員会で検討中） （所感） 本年、施行ということで、各自治体をかなり研究されている と思える。ICT の活用を条例化され、タブレット端末導入も いち早く取り入れられている。 今後、予定されている大田原市議会市民５分間演説実施要綱 は委員会において、市民の方の演説を検討されるとのこと であるが、今後においてどのような結論になるかお聞きした い。 ★議会だよりについて ○広報広聴委員会規程を策定し、平成２７年４月１４日から 施行 ○広報委員会（議会運営委員会の委員が兼務）から広報広聴 委員会を新たに設置（委員数８名） ○議会だよりの発行は、年３回行っており、平成２７年５月 号で１７０号を迎えた ○広報委員が、議会の概要（２ページ）、代表質問・一般質 問の原稿を作成 ○一般質問の原稿は質問者本人が作成していない （所感） 一般質問の原稿を広報委員が作成となっているが、写真、グ ラフ等をきれいに活用されていた。ただ、井原市のように本 人に委ねるのがよいと考える。ただ、文字も大きく、読みや すいと思え、井原市の「議会だより」も参考にすべきと考え る。
--	---

5. 活 動 内 容	★タブレット端末を利用した議会について ○執行部がまずタブレット端末を導入し、その後、議会へタブレット端末を導入 ○執行部のタブレット端末導入前の経緯 ● 大田原市役所地球温暖化防止実行計画が、平成 12 年 10 月に策定され、地球温暖化対策を推進する。 ● 取組目標として、コピー用紙の現行使用枚数 15,968,566 枚を基準年度比 20%削減とする。 ● コピー用紙の削減に向け、ペーパーレス会議を推進するため、タブレット端末の導入を決定する。(平成 26 年 6 月) ● 平成 26 年 8 月より、部課長会議でタブレット端末を使用し始める。 ● 執行部のタブレット端末の仕様 タブレット端末：アップル社製 iPad Air 16GB 使用ソフトウェア：サイドブックス・クラウド本棚 リース料：3 年間総額 626 万円（通信費除く） Wi-Fi 工事：39 万 5 千円 Wi-Fi 設定費：150 万円 ○議会のタブレット端末導入までの経緯 ● 平成 26 年 9 月から執行部が議会でタブレットを使用するようになり、平成 27 年 3 月議会からは議場でインターネット回線を利用し、オンラインでの使用を許可いただきたい旨の申し出があった。 ● 平成 26 年 12 月定例会の補正予算に、議会棟の議場及び会議室等に無線 LAN（Wi-Fi）を構成するため、アクセスポイントの設置工事を行いたい旨の申し出があった。 ● 会派代表者会議で検討し、議会運営委員会で協議した結果、「議会としてもタブレット端末を導入し、執行部と
-------------------	--

5. 活 動 内 容	同じ条件で本会議等に臨むべきである」との意見があり、執行部のオンラインでの使用を許可し、議会としても執行部と併せ、タブレット端末の導入を決定した。 ● 議会のタブレットの仕様 タブレット端末：アップル社製 iPad Air2 16GB 台数：28台 使用ソフトウェア ・ 会議システム（日立システムズ） ソフト名「スマートセッション」 ・ グループウェア（Google） ソフト名「Google Apps for Work」 導入費用等 ・ タブレット端末購入費等：0円 ・ タブレット端末通信費：2年間で約92万円 ・ ソフトウェア：初期導入費45.9万円 会議システム使用料月額 97,470円 ・ Wi-Fi 環境：初期導入費約 253万円 通信費月額 28万円 ● 導入効果（見込み） ・ 紙の削減：36万枚、年間29万円削減を見込む。 ※用紙代削減やコピー等の事務作業削減により、年間213万円を見込む。 ・ タブレット端末の使用料は年間約163万円であり、50万円のメリットがある。 （所感） 費用対効果を考えても、導入すべきと考える。 ただ、慣れるまでは、ある程度の時間が必要と思える。 ★トコトコ大田原について ○中心市街地に、にぎわいを創出する目的で建設
-------------------	---

5. 活 動 内 容	○建物内の概要 ● 1 階は、権利者店舗 2 店舗及び株式会社まちづくりカンパニーが保留床を取得して賃貸により貸出。自ら生鮮食料品を販売する商業施設で、正式名称を「トコトコマルシェショッピングフロア」とし、平成 2 5 年 1 0 月 1 9 日（土）オープン。 ● 2 階、3 階、4 階は大田原市が中心市街地のにぎわい創出のため整備した公共施設で「大田原市子ども未来館」、「大田原市市民交流センター」、「大田原図書館」で構成されている。 ● 5 階、6 階、7 階は、権利者住宅 5 戸と分譲住宅 5 戸からなっている。 ○来場者数（平成 2 7 年 5 月） ● 子ども未来館：2 0, 6 5 2 人（6 8 8 人／日） ● 図書館：2 0, 1 9 8 人（7 2 1 人／日） ● 市民交流センター：2, 1 1 6 人（6 8 人／日） （所感） 再開発ビル関係、総事業費約 3 5 億円、公共施設関係約 2 4 億円と大規模事業のであり、大田原市のランドマークと位置づけられる。上記のとおり、来場者も多く、市街地のにぎわいを創出するという目的は、達成されていると考える。 特にこども未来館は、一時保育センターもありも、子育て世代には子育てしやすい環境であり、児童福祉に理解があると考ええる。 図書館は、蔵書は 1 6 万冊と井原市に比べると少ないが、床面積 1 8 3 0 m² とワンフロアでバリアフリー。各世代が利用できる施設である。複合施設の利便性を垣間見ることができ、このような施設の必要性を考えさせられる。 ★那須野が原ハーモニーホールについて ○大田原市・西那須野町（現在的那須塩原市）の 2 つの自治
-------------------	---

5. 活 動 内 容	体が共同して建設した全国初のホール。 ○平成6年12月17日開館。 ○平成25年12月にパイプオルガンが完成・オープン。 ○ハーモニーホール建設費：92億円 ○費用負担割合は、大田原市6：那須塩原市4で運営 ※一部、負担割合が違う部分あり。 ○メンテナンス費用が莫大にかかっている。例えば、照明の更新をする場合、約6億円かかる。 (所感) 大ホールが約1千人の収容施設で、施設全体の規模から考えると少ない収容と思えた。大物アーティストが来る場合、収容人数から考察すると、ペイできないことも考えられる。ただ、年間通じて、イベントを開催され、音楽独特の感性が通じて体験できることは、羨ましい限りである。 維持管理については、建物が球体であり、雨漏り等、今後も費用がかさむと考えられる。 ★那須与一伝承館について ○扇の的劇場 客席数53の劇場で、「扇の的」として名高い屋島合戦における那須与一の活躍を、からくり人形風口ボットと三面ワイドスクリーンの映像によって表現している。 ○那須与一展示室 与一を生んだ那須氏に伝わる「那須家資料」をはじめ、与一や那須家に関わりのある貴重な資料が展示されている。 (所感) 劇場・展示室については、ハード面、ソフト面両面とも優れている。小学生の社会見学には、最適であると思える。指定管理団体へ管理委託がなされているが、今後の維持管理等が
-------------------	---

	大変であるを考える。 ただ、敷地内に道の駅も隣接しており平日にもかかわらず、かなりの人でにぎわっていた。 星の郷青空市と中世夢が原が隣接していればとつくづく考えさせられる施設であった。
1. 報告書は、政務活動終了後 <u>2 週間以内</u> に提出すること。 2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。	

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成27年 7月16日

井原市議会議長
上野 安是 様

井原市議会議員 柳井 一徳

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成27年7月8日（水）～7月9日（木）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	栃木県大田原市本町1丁目4番1号 大田原市議会
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	研修 1) 議会改革について 2) 議会だよりについて 3) タブレット端末を利用した議会について 視察 ① トコトコ大田原について ② 那須野が原ハーモニーホールについて ③那須与一伝承館について
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	○大田原市議会 議長 藤田 紀夫 副議長 鈴木 徳雄 議会運営委員長 引地 達雄 総務常任委員長 高野 礼子 民生常任委員長 前野 良三 建設常任委員長 君島 孝明 文教常任委員長 高瀬 重嗣 ○大田原市議会事務局 議会事務局長 藤沼 史生 議事課長 藤原 和美 総括主幹 齋藤 一美 主査 佐藤 崇之 主査 菊池 康弘

5. 活 動 内 容

研修

1) 議会改革について

- *テーマは「市民にわかりやすい議会」「議員活動の活性化」の2つで「議会活性化推進特別委員会」を平成24年3月22日に設置（委員数は13名）
- *議会改革に向けた改善項目70項目を協議
- *議会改革に向け
 - 第1次答申（平成24年9月定例会より）
 - 第2次答申（平成24年12月定例会より）それぞれ行う
- *「大田原市議会基本条例策定等検討委員会」設置
平成26年3月25日（委員数11名）
- *「大田原市議会基本条例」平成27年6月定例会にて可決
平成27年7月1日より施行



- *平成27年7月1日施行の議会基本条例に関する規則等主な項目は以下のとおり
 - (1)大田原市議会委員会傍聴規則
 - (2)大田原市議会の文書質問に関する規程
 - (3)大田原市議会における会議の音声及び映像等の情報の取扱いに関する規程
 - (4)大田原市議会報告会実施要綱
 - (5)大田原市議会正副議長立候補所信表明演説会実施要綱
 - (6)大田原市議会質問確認権に関する要綱
 - (7)請願者・陳情者の委員会における意見陳述について
- *今後、施行を予定している規則等
 - (1)請願者・陳情者に関する取扱要綱（未定）
 - (2)大田原市議会市民5分間演説実施要綱
（議会運営委員会で検討中）

2) 議会だよりについて

- *広報広聴委員会規程策定（平成27年4月14日施行）
- *広報広聴委員会委員が、議会の概要（2ページ）、代表質問・一般質問の原稿を作成（委員数8名）
一般質問の原稿は質問者本人が作成していない
- *議会だよりの発行は、年3回行っており、平成27年5月号で170号を迎えた

5. 活 動 内 容

3) タブレット端末を利用した議会について



* 執行部のタブレット端末導入前の経緯

- ・大田原市役所地球温暖化防止実行計画の策定（平成 12 年 10 月）を受け、地球温暖化対策の推進のため検討
- ・コピー用紙の現行使用枚数 15,968,566 枚を基準年度比 20%削減に目標値設定
- ・ペーパーレス会議の推進にタブレット端末導入の決定（平成 26 年 6 月）
- ・平成 26 年 8 月より、執行部は部課長会議で 60 台のタブレット端末を使用し始め、議会へは同年 9 月より持ち込む

* 議会のタブレット端末導入までの経緯

- ・執行部より平成 26 年 12 月定例会の補正予算に、議会での使用のために議場及び会議室等に無線 LAN（Wi-Fi）アクセスポイントの設置工事を行いたい旨の申し出あり
- ・議会運営委員会で協議した結果、「議会としてもタブレット端末を導入し、執行部と同じ条件で本会議等に臨むべき」との意見があり、タブレット端末導入の決定

（参考）議会のタブレットの仕様

タブレット端末：アップル社製 iPad Air2 16GB（28 台）

システム会社：日立システムズ（会議システム）

ソフト名：スマートセッション

グループウェア：Google

ソフト名：Google Apps for Work（クラウド型グループウェア）

導入費用等

- ・タブレット端末購入費等：0 円
- ・タブレット端末通信費：2 年間で約 92 万円
- ・ソフトウェア：初期導入費 45.9 万円
会議システム使用料月額 97,470 円
- ・Wi-Fi 環境：初期導入費約 253 万円
通信費月額 28 万円

導入効果（見込み）

- ・紙の削減：36 万枚、年間 29 万円削減を見込む。
※用紙代削減やコピー等の事務作業削減により、年間 213 万円を見込む。
- ・タブレット端末の使用料は年間約 163 万円であり、50 万円のメリットがある。

5. 活 動 内 容

視察

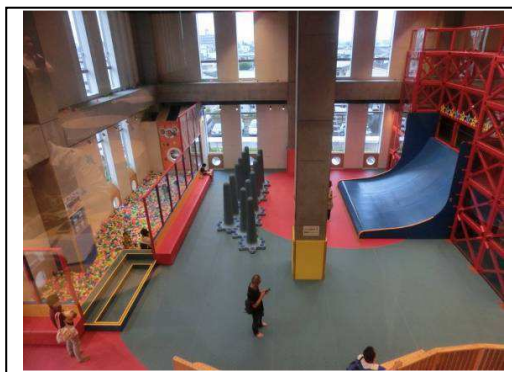
①トコトコ大田原について

＊中心市街地に、にぎわいを創出する目的で建設

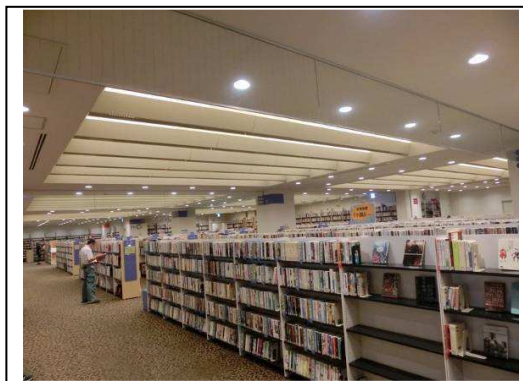


・建物内の概要

- 1階は、権利者店舗、2店舗及び株式会社まちづくりカンパニーが保留床を取得して賃貸により貸出。自ら生鮮食料品を販売する商業施設で、正式名称は「トコトコマルシェショッピングフロア」平成25年10月19日（土）オープン、2階、3階、4階は「大田原市子ども未来館」、「大田原市市民交流センター」、「大田原図書館」など大田原市の公共施設で構成、5階、6階、7階は、土地権利者住宅5戸と分譲住宅5戸である



【子ども未来館】



5. 活 動 内 容

【大田原図書館】

* 来場者数（平成27年5月）

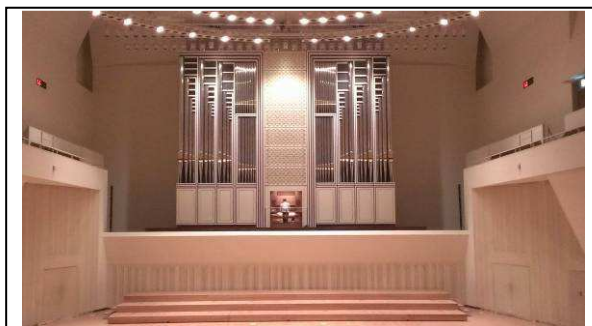
- ・ 子ども未来館：20,652人（688人／日）
- ・ 図書館：20,198人（721人／日）
- ・ 市民交流センター：2,116人（68人／日）

②那須野が原ハーモニーホールについて

* 大田原市・西那須野町（現在の那須塩原市）の2つの自治体が共同して建設した全国初のホール

* 平成6年12月17日開館（大ホール1200席、小400席）

* 平成25年12月にパイプオルガンが完成・オープン



* ハーモニーホール建設費：92億円

* 費用負担割合は、大田原市6：那須塩原市4で運営

※一部、負担割合が違う部分あり。

* メンテナンス費用が莫大にかかっている。例えば、照明の更新をする場合、約6億円かかる。

③那須与一伝承館について

* 扇の的劇場

客席数53の劇場で、「扇の的」として名高い屋島合戦における那須与一の活躍を、からくり人形風ロボットと三面ワイドスクリーンの映像によって表現している



* 那須与一展示室

与一を生んだ那須氏に伝わる「那須家資料」をはじめ、与一や那須氏に関わりのある貴重な資料が展示されている。

5. 活 動 内 容

所感

この度、友好都市である大田原市を訪問し、懸案であったタブレット端末によるペーパーレスの必要性を更に痛感した。費用対効果の面でも年間に用紙代他により50万円もの削減ができ、導入の価値があると考えられる。

また、驚いたのは市長の英断により、執行部が先に取り組み、議会は後追いで導入したことである。先進地の良いところを十分に研究し、いいものはどんどん取り入れることも必要に思われる。

また、商店街活性化に土地所有者と借地権を交わし商業ビルにおいて上階を地権者に住宅供給、1階を特産品売り場、クリニックなど2～4階を公共施設とするなど市民の憩いの場、また、子育て支援の場とし集客に知恵を出している。

文化面ではパイプオルガンを設置した、ハーモニーホールにより情操教育、有名な音楽家などのチケットは即完売で音楽に対する市民の深い理解など肌で感じた。

そして、那須与一では道の駅に資料館や劇場など併設し活性化させている。

本市において限られた少ない観光施設で道の駅などは困難であるが、井原市の良さなど情報発信により活性化に繋げる定住などいろんな策をいばら元気創生戦略本部だけでなくオール市民で知恵を出さなくてはならないと思う。商店街の活性化や、協働のまち作りで市民が知恵を出し行政がしっかりとサポートする体制は出来つつあり、思い切った施策や農業支援や福祉、市民サービスなどの支援策で市長の掲げる『安全、安心な住みよいまち作り』『健康寿命日本一』の確立が今後の課題であると感じた。

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成27年 7月15日

井原市議会議員
上野 安是 様

井原市議会議員 惣台 己吉

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成27年7月8日（水）～7月9日（木）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	栃木県大田原市本町1丁目4番1号 大田原市議会
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	○議会改革について ○議会だよりについて ○タブレット端末を利用した議会について ○トコトコ大田原について ○那須野が原ハーモニーホールについて ○那須与一伝承館について
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	○大田原市議会 - 議長 藤田 紀夫 - 副議長 鈴木 徳雄 - 議会運営委員長 引地 達雄 - 総務常任委員長 高野 礼子 - 民生常任委員長 前野 良三 - 建設常任委員長 君島 孝明 - 文教常任委員長 高瀬 重嗣 ○大田原市議会事務局 - 議会事務局長 藤沼 史生 - 議事課長 藤原 和美 - 総括主幹 齋藤 一美 - 主査 佐藤 崇之 - 主査 菊池 康弘

5. 活 動 内 容

★議会改革について

- 「市民にわかりやすい議会」「議員活動の活性化」という2つのテーマを掲げて、「議会活性化推進特別委員会」を平成24年3月22日に設置（委員数は13名）
- 議会改革に向けた改善項目70項目を協議
- 議会改革に向け第1次答申、第2次答申を行う
- 平成26年3月25日に、「大田原市議会基本条例策定等検討委員会」を設置（委員数11名）
- 平成27年6月定例会において、「大田原市議会基本条例」を可決し、平成27年7月1日より施行



- 平成27年7月1日施行の議会基本条例に関する規則等
 - (1)大田原市議会委員会傍聴規則
 - (2)大田原市議会の文書質問に関する規程
 - (3)大田原市議会における会議の音声及び映像等の情報の取扱いに関する規程
 - (4)大田原市議会報告会実施要綱
 - (5)大田原市議会正副議長立候補所信表明演説会実施要綱
 - (6)大田原市議会質問確認権に関する要綱
 - (7)請願者・陳情者の委員会における意見陳述について
- 今後、施行を予定している規則等
 - (1)請願者・陳情者に関する取扱要綱（未定）
 - (2)大田原市議会市民5分間演説実施要綱（議会運営委員会で検討中）

★議会だよりについて

- 広報広聴委員会規程を策定し、平成27年4月14日から施行
- 広報委員会（議会運営委員会の委員が兼務）から広報広聴委員会を新たに設置（委員数8名）
- 議会だよりの発行は、年3回行っており、平成27年5月号で170号を迎えた
- 広報委員が、議会の概要（2ページ）、代表質問・一般質問の原稿を作成
- 一般質問の原稿は質問者本人が作成していない

5. 活 動 内 容

★タブレット端末を利用した議会について



○執行部がまずタブレット端末を導入し、その後、議会へタブレット端末を導入

○執行部のタブレット端末導入前の経緯

- 大田原市役所地球温暖化防止実行計画が、平成 12 年 10 月に策定され、地球温暖化対策を推進する。
- 取組目標として、コピー用紙の現行使用枚数 15,968,566 枚を基準年度比 20%削減とする。
- コピー用紙の削減に向け、ペーパーレス会議を推進するため、タブレット端末の導入を決定する。(平成 26 年 6 月)
- 平成 26 年 8 月より、部課長会議でタブレット端末を使用し始める。
- 執行部のタブレット端末の仕様
タブレット端末：アップル社製 iPad Air 16GB
使用ソフトウェア：サイドブックス・クラウド本棚
リース料：3 年間総額 626 万円（通信費除く）
Wi-Fi 工事：39 万 5 千円
Wi-Fi 設定費：150 万円

○議会のタブレット端末導入までの経緯

- 平成 26 年 9 月から執行部が議会でタブレットを使用するようになり、平成 27 年 3 月議会からは議場でインターネット回線を利用し、オンラインでの使用を許可いただきたい旨の申し出があった。
- 平成 26 年 12 月定例会の補正予算に、議会棟の議場及び会議室等に無線 LAN (Wi-Fi) を構成するため、アクセスポイントの設置工事を行いたい旨の申し出があった。
- 会派代表者会議で検討し、議会運営委員会で協議した結果、「議会としてもタブレット端末を導入し、執行部と同じ条件で本会議等に臨むべきである」との意見があり、執行部のオンラインでの使用を許可し、議会としても執行部と併せ、タブレット端末の導入を決定した。

5. 活 動 内 容

● 議会のタブレットの仕様

タブレット端末：アップル社製 iPad Air2 16GB

台数：28台

使用ソフトウェア

- ・会議システム（日立システムズ）

ソフト名「スマートセッション」

- ・グループウェア（Google）

ソフト名「Google Apps for Work」

導入費用等

- ・タブレット端末購入費等：0円
- ・タブレット端末通信費：2年間で約92万円
- ・ソフトウェア：初期導入費45.9万円
会議システム使用料月額97,470円
- ・Wi-Fi環境：初期導入費約253万円
通信費月額28万円

● 導入効果（見込み）

- ・紙の削減：36万枚、年間29万円削減を見込む。
※用紙代削減やコピー等の事務作業削減により、年間213万円を見込む。
- ・タブレット端末の使用料は年間約163万円であり、50万円のメリットがある。

★トコトコ大田原について

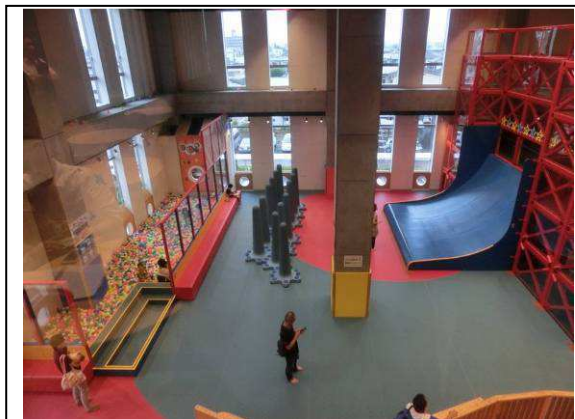
○中心市街地に、にぎわいを創出する目的で建設



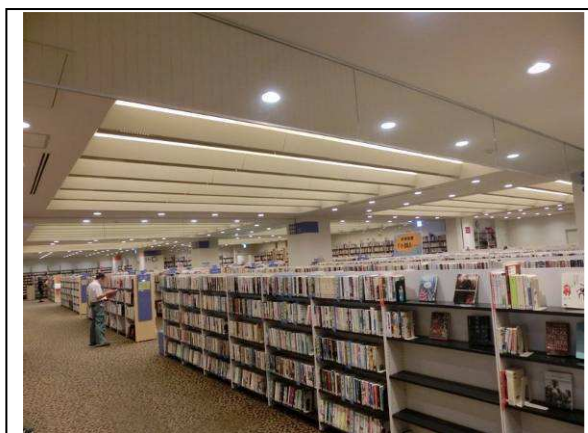
○建物内の概要

- 1階は、権利者店舗2店舗及び株式会社まちづくりカンパニーが保留床を取得して賃貸により貸出。自ら生鮮食料品を販売する商業施設で、正式名称を「トコトコマルシェショッピングフロア」とし、平成25年10月19日（土）オープン。
- 2階、3階、4階は大田原市が中心市街地のにぎわい創出のため整備した公共施設で「大田原市子ども未来館」、「大田原市市民交流センター」、「大田原図書館」で構成されている。

5. 活 動 内 容



【子ども未来館】



【大田原図書館】

- 5階、6階、7階は、権利者住宅5戸と分譲住宅5戸からなっている。

○来場者数（平成27年5月）

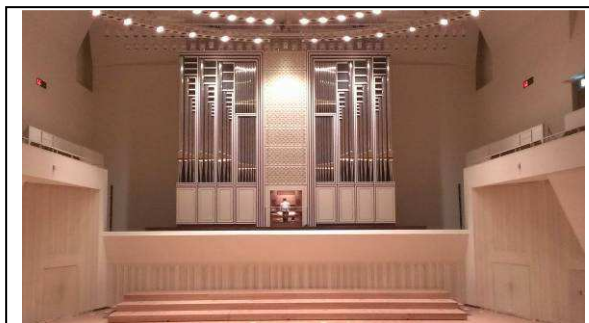
- 子ども未来館：20,652人（688人／日）
- 図書館：20,198人（721人／日）
- 市民交流センター：2,116人（68人／日）

★那須野が原ハーモニーホールについて

○大田原市・西那須野町（現在の那須塩原市）の2つの自治体が共同して建設した全国初のホール。

○平成6年12月17日開館。

○平成25年12月にパイプオルガンが完成・オープン。



5. 活 動 内 容

- ハーモニーホール建設費：92億円
- 費用負担割合は、大田原市6：那須塩原市4で運営
※一部、負担割合が違う部分あり。
- メンテナンス費用が莫大にかかっている。例えば、照明の更新をする場合、約6億円かかる。

★那須与一伝承館について

○扇の的劇場

客席数53の劇場で、「扇の的」として名高い屋島合戦における那須与一の活躍を、からくり人形風ロボットと三面ワイドスクリーンの映像によって表現している。



○那須与一展示室

与一を生んだ那須氏に伝わる「那須家資料」をはじめ、与一や那須氏に関わりのある貴重な資料が展示されている。

★所感★

○ タブレット端末を利用した議会について

費用対効果を考えて、導入されていた。
議会としてもタブレット端末を導入し、執行部と同じ条件で本会議に臨むべきであるとの意見があり、議会としても執行部と併せて、タブレット端末を導入されたことには賛同できる。

○ トコトコ大田原について

中心市街地に、にぎわいを創出する目的で建設、子ども未来館は、一時保育センターがあり、子育て世代には子育てしやすい環境であり児童福祉に理解がある。
「子ども未来館」「市民交流センター」「図書館」で構成されている複合施設の必要性と維持・管理面は充分検討が必要である。

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成27年 7月21日

井原市議会議長
上野 安是 様

井原市議会議員 三宅 文雄

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成27年7月8日（水）～7月9日（木）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	栃木県大田原市本町1丁目4番1号 大田原市議会
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	○議会改革について ○議会だよりについて ○タブレット端末を利用した議会について ○トコトコ大田原について ○那須野が原ハーモニーホールについて ○那須与一伝承館について
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	○大田原市議会 - 議長 藤田 紀夫 - 副議長 鈴木 徳雄 - 議会運営委員長 引地 達雄 - 総務常任委員長 高野 礼子 - 民生常任委員長 前野 良三 - 建設常任委員長 君島 孝明 - 文教常任委員長 高瀬 重嗣 ○大田原市議会事務局 - 議会事務局長 藤沼 史生 - 議事課長 藤原 和美 - 総括主幹 齋藤 一美 - 主査 佐藤 崇之 - 主査 菊池 康弘

5. 活 動 内 容

★議会改革について

- 「市民にわかりやすい議会」「議員活動の活性化」という2つのテーマを掲げて、「議会活性化推進特別委員会」を平成24年3月22日に設置（委員数は13名）
- 議会改革に向けた改善項目70項目を協議
- 議会改革に向け第1次答申、第2次答申を行う
- 平成26年3月25日に、「大田原市議会基本条例策定等検討委員会」を設置（委員数11名）
- 平成27年6月定例会において、「大田原市議会基本条例」を可決し、平成27年7月1日より施行



- 平成27年7月1日施行の議会基本条例に関する規則等
 - (1)大田原市議会委員会傍聴規則
 - (2)大田原市議会の文書質問に関する規程
 - (3)大田原市議会における会議の音声及び映像等の情報の取扱いに関する規程
 - (4)大田原市議会報告会実施要綱
 - (5)大田原市議会正副議長立候補所信表明演説会実施要綱
 - (6)大田原市議会質問確認権に関する要綱
 - (7)請願者・陳情者の委員会における意見陳述について
- 今後、施行を予定している規則等
 - (1)請願者・陳情者に関する取扱要綱（未定）
 - (2)大田原市議会市民5分間演説実施要綱（議会運営委員会で検討中）

★議会だよりについて

- 広報広聴委員会規程を策定し、平成27年4月14日から施行
- 広報委員会（議会運営委員会の委員が兼務）から広報広聴委員会を新たに設置（委員数8名）
- 議会だよりの発行は、年3回行っており、平成27年5月号で170号を迎えた
- 広報委員が、議会の概要（2ページ）、代表質問・一般質問の原稿を作成
- 一般質問の原稿は質問者本人が作成していない

5. 活 動 内 容

★タブレット端末を利用した議会について



○執行部がまずタブレット端末を導入し、その後、議会へタブレット端末を導入

○執行部のタブレット端末導入前の経緯

- 大田原市役所地球温暖化防止実行計画が、平成 12 年 10 月に策定され、地球温暖化対策を推進する。
- 取組目標として、コピー用紙の現行使用枚数 15,968,566 枚を基準年度比 20%削減とする。
- コピー用紙の削減に向け、ペーパーレス会議を推進するため、タブレット端末の導入を決定する。(平成 26 年 6 月)
- 平成 26 年 8 月より、部課長会議でタブレット端末を使用し始める。
- 執行部のタブレット端末の仕様
タブレット端末：アップル社製 iPad Air 16GB
使用ソフトウェア：サイドブックス・クラウド本棚
リース料：3 年間総額 626 万円（通信費除く）
Wi-Fi 工事：39 万 5 千円
Wi-Fi 設定費：150 万円

○議会のタブレット端末導入までの経緯

- 平成 26 年 9 月から執行部が議会でタブレットを使用するようになり、平成 27 年 3 月議会からは議場でインターネット回線を利用し、オンラインでの使用を許可いただきたい旨の申し出があった。
- 平成 26 年 12 月定例会の補正予算に、議会棟の議場及び会議室等に無線 LAN (Wi-Fi) を構成するため、アクセスポイントの設置工事を行いたい旨の申し出があった。
- 会派代表者会議で検討し、議会運営委員会で協議した結果、「議会としてもタブレット端末を導入し、執行部と同じ条件で本会議等に臨むべきである」との意見があり、執行部のオンラインでの使用を許可し、議会としても執行部と併せ、タブレット端末の導入を決定した。

5. 活 動 内 容

● 議会のタブレットの仕様

タブレット端末：アップル社製 iPad Air2 16GB

台数：28台

使用ソフトウェア

- ・会議システム（日立システムズ）

ソフト名「スマートセッション」

- ・グループウェア（Google）

ソフト名「Google Apps for Work」

導入費用等

- ・タブレット端末購入費等：0円
- ・タブレット端末通信費：2年間で約92万円
- ・ソフトウェア：初期導入費45.9万円
会議システム使用料月額97,470円
- ・Wi-Fi環境：初期導入費約253万円
通信費月額28万円

● 導入効果（見込み）

- ・紙の削減：36万枚、年間29万円削減を見込む。
※用紙代削減やコピー等の事務作業削減により、年間213万円を見込む。
- ・タブレット端末の使用料は年間約163万円であり、50万円のメリットがある。

★トコトコ大田原について

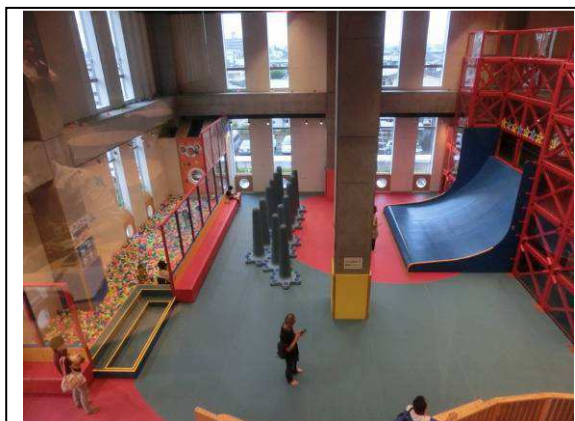
○中心市街地に、にぎわいを創出する目的で建設



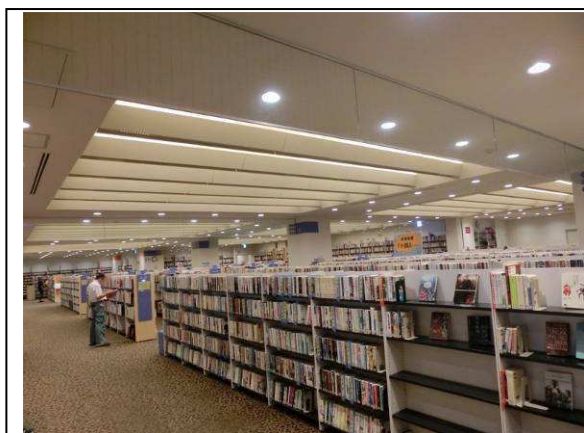
○建物内の概要

- 1階は、権利者店舗2店舗及び株式会社まちづくりカンパニーが保留床を取得して賃貸により貸出。自ら生鮮食料品を販売する商業施設で、正式名称を「トコトコマルシェショッピングフロア」とし、平成25年10月19日（土）オープン。
- 2階、3階、4階は大田原市が中心市街地のにぎわい創出のため整備した公共施設で「大田原市子ども未来館」、「大田原市市民交流センター」、「大田原図書館」で構成されている。

5. 活 動 内 容



【子ども未来館】



【大田原図書館】

- 5階、6階、7階は、権利者住宅5戸と分譲住宅5戸からなっている。

○来場者数（平成27年5月）

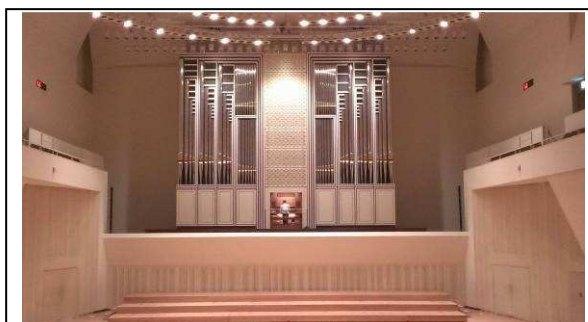
- 子ども未来館：20,652人（688人／日）
- 図書館：20,198人（721人／日）
- 市民交流センター：2,116人（68人／日）

★那須野が原ハーモニーホールについて

○大田原市・西那須野町（現在の那須塩原市）の2つの自治体が共同して建設した全国初のホール。

○平成6年12月17日開館。

○平成25年12月にパイプオルガンが完成・オープン。



5. 活 動 内 容

- ハーモニーホール建設費：92億円
- 費用負担割合は、大田原市6：那須塩原市4で運営
※一部、負担割合が違う部分あり。
- メンテナンス費用が莫大にかかっている。例えば、照明の更新をする場合、約6億円かかる。

★那須与一伝承館について

○扇の的劇場

客席数53の劇場で、「扇の的」として名高い屋島合戦における那須与一の活躍を、からくり人形風ロボットと三面ワイドスクリーンの映像によって表現している。



○那須与一展示室

与一を生んだ那須氏に伝わる「那須家資料」をはじめ、与一や那須氏に関わりのある貴重な資料が展示されている。

★所感★

一度は行ってみたかった、本市の友好親善都市大田原。那須与一が取り持つ縁で交流が始まってから早いもので、昨年10月に30周年を迎えたとのことである。2011年3月11日に発生した東日本大震災では、当地も震度6強の大地震の直撃を受けて、議会棟は何とか残ったが、庁舎は被害が甚大であったため、解体して現在は仮庁舎で業務を行っているそうである。新庁舎の建設については、現在工事中とのこと。震災直後には、井原市からブルーシートはじめ、多くの防災資器材を送っていただいて、本当に助かりましたと藤田市議会議長が冒頭のあいさつのなかで感謝の言葉を述べられていた。

最初の研修会で感じたことのひとつに、議会基本条例の策定では井原市議会の方が先行して実施したが、議会にタブレットを導入したのは先を越されたような感じがする。大田原市議会に関わらず、全国各地の地方議会においてペーパーレス化が着実に進行している様子の一端が伺えた。議会改革においても熱心に取り組んでおられる姿が拝見でき、また議会運営については、現状はどうか、問題点はないかなど、互いに真剣に議論を戦わせて有意義な研修会であったと思う。

	中心市街地活性化対策として誕生した再開発ビル、「トコトコ大田原」はまず建物の大きいのびびっくりした。とにかく広い。1階には店舗をはじめとした商業施設が入居し、5～7階が住宅、2～4階に図書館、子ども未来館や市民交流センターが入っていて、子育て世代を中心に、幼児から老人まで気軽に集える場として、実によく考えて計画されていると感じた。これから先の少子高齢化の時代に備えて、公共施設の集約化という面からもヒントになるようなところが数多くあった。 那須野が原ハーモニーホールでは、建物が非常に立派で、規模も大きくて、当地の文化活動のレベルの高さを感じられた。ちょうど訪問時に、大ホールに設置しているパイプオルガンの調律に業者の方が来ておられて、あのすばらしい立派な施設のなかで3曲も演奏して下さった。なかでも賛美歌の演奏では、ホール全体に音色が響き渡り、音楽のすばらしさを改めて実感することができた。 道の駅、那須与一の郷に併設してある那須与一伝承館の劇場では、屋島の合戦の様子が15分間にわたってスクリーンに映し出されていた。与一のすごさについて係員の方から説明があった。それによると、飛んだ矢の距離は現在の距離にして約75m。揺れる船上で放った矢は、平家の船の、同じように揺れる扇の的にみごとに突き刺さったのだそうである。那須与一という人物はそれだけ弓という武具の使い方にたけていたということである。 大田原市には与一はじめ那須家にまつわる施設が数多く存在するようで、それらの保存、顕彰活動が現在も活発に行われているとのことである。 このたび初めて大田原市を訪れることができ、大田原市議会の皆様方から温かく迎えていただいて、おかげさまで本当によい研修をすることができました。
	1. 報告書は、政務活動終了後<u>2週間以内</u>に提出すること。 2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成27年 7月21日

井原市議会議員
上野 安是 様

井原市議会議員 宮地 俊則

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成27年7月8日（水）～7月9日（木）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	栃木県大田原市本町1丁目4番1号 大田原市議会
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	○議会改革について ○議会だよりについて ○タブレット端末を利用した議会について ○トコトコ大田原について ○那須野が原ハーモニーホールについて ○那須与一伝承館について
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	○大田原市議会 - 議長 藤田 紀夫 - 副議長 鈴木 徳雄 - 議会運営委員長 引地 達雄 - 総務常任委員長 高野 礼子 - 民生常任委員長 前野 良三 - 建設常任委員長 君島 孝明 - 文教常任委員長 高瀬 重嗣 ○大田原市議会事務局 - 議会事務局長 藤沼 史生 - 議事課長 藤原 和美 - 総括主幹 齋藤 一美 - 主査 佐藤 崇之 - 主査 菊池 康弘

5. 活 動 内 容

★議会改革について

- 平成27年6月定例会において、「大田原市議会基本条例」を可決し、平成27年7月1日より施行



- 5年目となる井原市議会の課題などを提示し、大田原市議会と互いに質疑応答により、意見交換を行った。

★議会だよりについて

- 広報広聴委員会規程を策定し、平成27年4月14日から施行
- 井原市議会との違いは一般質問の原稿を質問者本人が作成していない点でそのほか、大きな違いはないように思われた。

★タブレット端末を利用した議会について



- 執行部がまずタブレット端末を導入し、その後、議会へタブレット端末を導入

- 執行部のタブレット端末導入前の経緯

- 大田原市役所地球温暖化防止実行計画が、平成12年10

5. 活 動 内 容	月に策定され、地球温暖化対策を推進する。 ● 取組目標として、コピー用紙の現行使用枚数 15,968,566 枚を基準年度比 20%削減とする。 ● コピー用紙の削減に向け、ペーパーレス会議を推進するため、タブレット端末の導入を決定する。(平成 26 年 6 月) ● 平成 26 年 8 月より、部課長会議でタブレット端末を使用し始める。 ● 執行部のタブレット端末の仕様 タブレット端末：アップル社製 iPad Air 16GB 使用ソフトウェア：サイドブックス・クラウド本棚 リース料：3 年間総額 626 万円（通信費除く） Wi-Fi 工事：39 万 5 千円 Wi-Fi 設定費：150 万円 ○議会のタブレット端末導入までの経緯 ● 平成 26 年 9 月から執行部が議会でタブレットを使用するようになり、平成 27 年 3 月議会からは議場でインターネット回線を利用し、オンラインでの使用を許可いただきたい旨の申し出があった。 ● 平成 26 年 12 月定例会の補正予算に、議会棟の議場及び会議室等に無線 LAN (Wi-Fi) を構成するため、アクセスポイントの設置工事を行いたい旨の申し出があった。 ● 会派代表者会議で検討し、議会運営委員会で協議した結果、「議会としてもタブレット端末を導入し、執行部と同じ条件で本会議等に臨むべきである」との意見があり、執行部のオンラインでの使用を許可し、議会としても執行部と併せ、タブレット端末の導入を決定した。 ● 議会のタブレットの仕様 タブレット端末：アップル社製 iPad Air2 16GB 台数：28 台 使用ソフトウェア ・会議システム（日立システムズ） ソフト名「スマートセッション」 ・グループウェア（Google） ソフト名「Google Apps for Work」 導入費用等 ・タブレット端末購入費等：0 円 ・タブレット端末通信費：2 年間で約 92 万円 ・ソフトウェア：初期導入費 45.9 万円 会議システム使用料月額 97,470 円 ・Wi-Fi 環境：初期導入費約 253 万円 通信費月額 28 万円 ● 導入効果（見込み） ・紙の削減：36 万枚、年間 29 万円削減を見込む。 ※用紙代削減やコピー等の事務作業削減により、年
-------------------	--

5. 活 動 内 容

間 2 1 3 万円を見込む。

- ・ タブレット端末の使用料は年間約 1 6 3 万円であり、5 0 万円のメリットがある。

○この度の視察のメインともいべきこのタブレット端末を利用した議会について大変有意義な研修ができたものと思う。

実現にあたり、何よりもポイントとなるのは大田原市のように執行部の協力であり、執行部自らが導入しようといった環境整備が必要であると痛感させられた。

本市においても近い将来、導入していこうとするならば、議会からの粘り強い働き掛けが必要であり、そのためにもまず議会自身がその意識を共有することが先決であると感じた。

★トコトコ大田原について

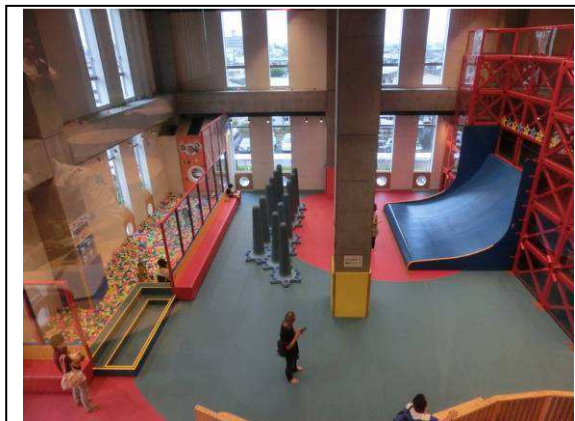
○中心市街地に、にぎわいを創出する目的で建設



○建物内の概要

- 1 階は、権利者店舗 2 店舗及び株式会社まちづくりカンパニーが保留床を取得して賃貸により貸出。自ら生鮮食料品を販売する商業施設で、正式名称を「トコトコマルシェショッピングフロア」とし、平成 2 5 年 1 0 月 1 9 日（土）オープン。
- 2 階、3 階、4 階は大田原市が中心市街地のにぎわい創出のため整備した公共施設で「大田原市子ども未来館」、「大田原市市民交流センター」、「大田原図書館」で構成されている。

5. 活 動 内 容



【子ども未来館】



【大田原図書館】

- 5階、6階、7階は、権利者住宅5戸と分譲住宅5戸からなっている。

○来場者数（平成27年5月）

- 子ども未来館：20,652人（688人／日）
- 図書館：20,198人（721人／日）
- 市民交流センター：2,116人（68人／日）

○井原市の2倍近くの人口を擁する大田原市ではあるが、こうした社会教育・児童福祉に関する公共施設に大きな力を注いでいることがいたるところで感じられた。それもどれも簡単ではない状況の中で、民間の力を遠慮なく導入しようという既存の発想を超えた取り組みが随所に見られた。

その他にも以下の2自治体共同により建設したユニークで素晴らしい文化施設や那須与一に関する資料館などを視察し、井原市との深いつながりを感じさせて頂き大いに見聞を広めることが出来ました。

5. 活 動 内 容

★那須野が原ハーモニーホールについて

- 大田原市・西那須野町（現在の那須塩原市）の2つの自治体が共同して建設した全国初のホール。
- 平成6年12月17日開館。
- 平成25年12月にパイプオルガンが完成・オープン。



- ハーモニーホール建設費：92億円
- 費用負担割合は、大田原市6：那須塩原市4で運営
※一部、負担割合が違う部分あり。
- メンテナンス費用が莫大にかかっている。例えば、照明の更新をする場合、約6億円かかる。

★那須与一伝承館について

○扇の的劇場

客席数53の劇場で、「扇の的」として名高い屋島合戦における那須与一の活躍を、からくり人形風ロボットと三面ワイドスクリーンの映像によって表現している。



○那須与一展示室

与一を生んだ那須氏に伝わる「那須家資料」をはじめ、与一や那須氏に関わりのある貴重な資料が展示されている。

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成27年 7月22日

井原市議会議長
上野 安是 様

井原市議会議員 藤原 清和

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成27年7月8日（水）～7月9日（木）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	栃木県大田原市本町1丁目4番1号 大田原市議会
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	研修 1) 議会改革について 2) 議会だよりについて 3) タブレット端末を利用した議会について 視察 ① トコトコ大田原について ② 那須野が原ハーモニーホールについて ③那須与一伝承館について
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	○大田原市議会 議長 藤田 紀夫 副議長 鈴木 徳雄 議会運営委員長 引地 達雄 総務常任委員長 高野 礼子 民生常任委員長 前野 良三 建設常任委員長 君島 孝明 文教常任委員長 高瀬 重嗣 ○大田原市議会事務局 議会事務局長 藤沼 史生 議事課長 藤原 和美 総括主幹 齋藤 一美 主査 佐藤 崇之 主査 菊池 康弘

5. 活 動 内 容

研修

1) 議会改革について

- *テーマは「市民にわかりやすい議会」「議員活動の活性化」の2つで「議会活性化推進特別委員会」を平成24年3月22日に設置（委員数は13名）
- *議会改革に向けた改善項目70項目を協議
- *議会改革に向け
第1次答申（平成24年9月定例会より）
第2次答申（平成24年12月定例会より）それぞれ行う
- *「大田原市議会基本条例策定等検討委員会」設置
平成26年3月25日（委員数11名）
- *「大田原市議会基本条例」平成27年6月定例会にて可決
平成27年7月1日より施行



- *平成27年7月1日施行の議会基本条例に関する規則等主な項目は以下のとおり

- (1)大田原市議会委員会傍聴規則
- (2)大田原市議会の文書質問に関する規程
- (3)大田原市議会における会議の音声及び映像等の情報の取扱いに関する規程
- (4)大田原市議会報告会実施要綱
- (5)大田原市議会正副議長立候補所信表明演説会実施要綱
- (6)大田原市議会質問確認権に関する要綱
- (7)請願者・陳情者の委員会における意見陳述について

- *今後、施行を予定している規則等

- (1)請願者・陳情者に関する取扱要綱（未定）
- (2)大田原市議会市民5分間演説実施要綱
（議会運営委員会で検討中）

2) 議会だよりについて

- *広報広聴委員会規程策定（平成27年4月14日施行）
- *広報広聴委員会委員が、議会の概要（2ページ）、代表質問・一般質問の原稿を作成（委員数8名）
一般質問の原稿は質問者本人が作成していない
- *議会だよりの発行は、年3回行っており、平成27年5月号で170号を迎えた

5. 活 動 内 容

3) タブレット端末を利用した議会について



* 執行部のタブレット端末導入前の経緯

- ・ 大田原市役所地球温暖化防止実行計画の策定（平成 12 年 10 月）を受け、地球温暖化対策の推進のため検討
- ・ コピー用紙の現行使用枚数 15,968,566 枚を基準年度比 20%削減に目標値設定
- ・ ペーパーレス会議の推進にタブレット端末導入の決定（平成 26 年 6 月）
- ・ 平成 26 年 8 月より、執行部は部課長会議で 60 台のタブレット端末を使用し始め、議会へは同年 9 月より持ち込む

* 議会のタブレット端末導入までの経緯

- ・ 執行部より平成 26 年 12 月定例会の補正予算に、議会での使用のために議場及び会議室等に無線 LAN（Wi-Fi）アクセスポイントの設置工事を行いたい旨の申し出あり
- ・ 議会運営委員会で協議した結果、「議会としてもタブレット端末を導入し、執行部と同じ条件で本会議等に臨むべき」との意見があり、タブレット端末導入の決定

（参考）議会のタブレットの仕様

タブレット端末：アップル社製 iPad Air2 16GB（28 台）

システム会社：日立システムズ（会議システム）

ソフト名：スマートセッション

グループウェア：Google

ソフト名：Google Apps for Work（クラウド型グループウェア）

導入費用等

- ・ タブレット端末購入費等：0 円
- ・ タブレット端末通信費：2 年間で約 92 万円
- ・ ソフトウェア：初期導入費 45.9 万円
会議システム使用料月額 97,470 円
- ・ Wi-Fi 環境：初期導入費約 253 万円
通信費月額 28 万円

導入効果（見込み）

- ・ 紙の削減：36 万枚、年間 29 万円削減を見込む。
※用紙代削減やコピー等の事務作業削減により、年間 213 万円を見込む。
- ・ タブレット端末の使用料は年間約 163 万円であり、50 万円のメリットがある。

5. 活 動 内 容

視察

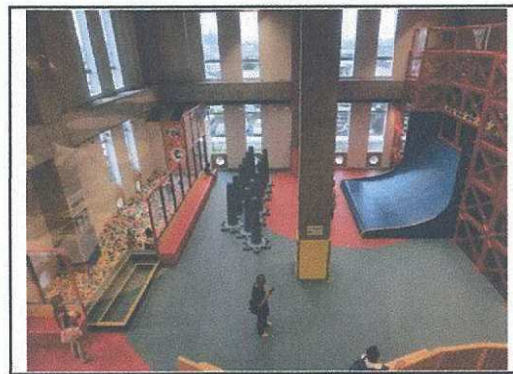
①トコトコ大田原について

* 中心市街地に、にぎわいを創出する目的で建設

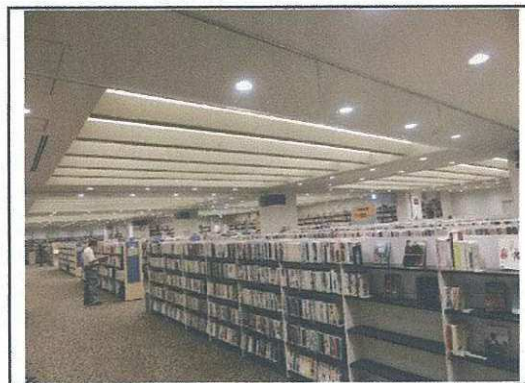


・建物内の概要

- 1階は、権利者店舗、2店舗及び株式会社まちづくりカンパニーが保留床を取得して賃貸により貸出。自ら生鮮食料品を販売する商業施設で、正式名称は「トコトコマルシェショッピングフロア」平成25年10月19日（土）オープン、2階、3階、4階は「大田原市子ども未来館」、「大田原市市民交流センター」、「大田原図書館」など大田原市の公共施設で構成、5階、6階、7階は、土地権利者住宅5戸と分譲住宅5戸である



【子ども未来館】



5. 活 動 内 容

【大田原図書館】

* 来場者数 (平成27年5月)

- ・ 子ども未来館：20,652人 (688人/日)
- ・ 図書館：20,198人 (721人/日)
- ・ 市民交流センター：2,116人 (68人/日)

②那須野が原ハーモニーホールについて

* 大田原市・西那須野町 (現在の那須塩原市) の2つの自治体が共同して建設した全国初のホール

* 平成6年12月17日開館 (大ホール1200席、小400席)

* 平成25年12月にパイプオルガンが完成・オープン



* ハーモニーホール建設費：92億円

* 費用負担割合は、大田原市6：那須塩原市4で運営
※一部、負担割合が違う部分あり。

* メンテナンス費用が莫大にかかっている。例えば、照明の更新をする場合、約6億円かかる。

③那須与一伝承館について

* 扇の的劇場

客席数53の劇場で、「扇の的」として名高い屋島合戦における那須与一の活躍を、からくり人形風ロボットと三面ワイドスクリーンの映像によって表現している



* 那須与一展示室

与一を生んだ那須氏に伝わる「那須家資料」をはじめ、与一や那須氏に関わりのある貴重な資料が展示されている。

5. 活 動 内 容

所感

◎この度の行政視察は、議会改革の取り組みとして、市民との関わりや、議会だよりの編集について、お互いの意見交換を交えながら、議員各位との親交を深めていくことに目的の一つでありました。

◎タブレット端末による定例会議の取り組みについては、井原市議会においても早期に取り組んでいく方向で検討を進めていくべきだと思います。。

◎市民と共に推進していくまちづくりについては、井原市としても詳細に分析して、人口減少対策に適合できる施策等活用していくべきだと思います。

◎ハード面の取り組みも大切ですが、ソフト面の子育て支援基金の創設など、一考すべきであると思います。

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。